

まちづくりイベント「こどもみちおえかき」手法の開発

—月島長屋学校での取り組み—

STUDY ON THE METHOD OF MACHIDUKURI EVENTS “LOAD PAINTING FOR CHILDREN”

— Projects in Tsukishima Nagaya School —

長岡修平 — * 1 佐藤直人 — * 1
志村秀明 — * 2

Shuhei NAGAOKA — * 1 Naoto SATO — * 1
Hideaki SHIMURA — * 2

キーワード：
まちづくりイベント, こども, みちおえかき, 市民参加, 町会, 連携

Keywords:
Machidukuri events, Children, Load painting, Public participation, Community association, Partnership

The purpose of this paper is to report the contents, the results, the system of the organization, rolls of members, the effects and the evaluation on Machidukuri event “Load Painting For Children” on the case study in Tsukishima Nagaya School.

The conclusions are as follows. 1) This event can be community activity which young generation participate. 2) This event can raise awareness for town and community activities. 3) This event is able to be held by partnership among students, residents, and community associations. 4) Coloring works and explanations about the management organization are necessary for making exchange between participants.

1. はじめに

1.1 研究背景と目的

東京湾岸地域では、近年再開発による大規模マンションが急増する中で、人口は増加するものの、新住民の地域活動への無関心といったコミュニティの希薄化¹⁾が問題となっている。特に新住民の多くを占める30代、40代といった若い世代は、都心へ通勤する就労者が多いため、地域活動への関心は低く、活動への参加も少ない。

ところで東京都中央区月島で、筆者らは「月島長屋学校（以下：長屋学校）」²⁾を開設して住民と大学が連携する活動を展開しているが、月島においても、若い世代のまちへの無関心、地域活動への無関心、参加率が低いといった問題が指摘されている。

そこで本研究では、長屋学校を拠点としたまちづくりイベント「こどもみちおえかき」（以下：みちおえかきイベント）を開催した。本稿では、みちおえかきイベントの普及を主眼として、みちおえかきイベントの内容と結果、実施主体の体制と役割分担、効果と評価について報告する。

1.2 既往研究

木下³⁾は大人と子どもと一緒に活動することによって、まちへの意識変化が生じ、活動に積極的に参画するようになるとしている。しかし、子どもの創造性を育む、また、まちづくり学習のためのワークショップは数多く報告されているが^{4) 5) 6)}、若い世代のまちへの関心や地域活動への関心を高める手法としての、子どもと保護者が気軽に参加するワークショップやイベントの報告は少ない。また、昔からある子どもの遊びの一つである道路へのおえかきに関する手法の報告はない。

そこで本研究は、若い世代のまちへの関心や地域活動への関心を高め、また地域活動への参加を促進する方法として、若い世代の保

護者と子どもと一緒に参加するみちおえかきイベントの方法の開発を目指すものである。

1.3 研究の方法

まちづくりイベントとして、芝浦工業大学の学生（以下：学生）、長屋学校、地元町会^{注1)}の連携によるみちおえかきイベントを開催する。まず、中央区月島と長屋学校の概要を説明した上で、みちおえかきイベントの内容と結果を示す。次に、みちおえかきイベントの実施主体の体制と役割分担を示す。更に、みちおえかきイベントの参加者と実施主体に対するアンケート調査の結果から、みちおえかきイベントの効果と評価を明らかにする。

2. 中央区月島と長屋学校の概要

2.1 中央区月島

長屋学校周辺の月島と、月島地区^{注2)}の年齢層別人口動態⁷⁾を図1に示す。



図1 長屋学校周辺の月島と人口動態

¹⁾ 芝浦工業大学大学院理工学研究科建設工学専攻 修士課程 (〒135-8548 江東区豊洲 3-7-5)

²⁾ 芝浦工業大学工学部建築学科 教授・博士 (工学)

¹⁾ Graduate School, Shibaura Institute of Technology

²⁾ Prof., Dept. of Architecture, Shibaura Institute of Technology, Dr. Eng.

中央区月島は、戦時中の空襲に遭わなかったため、戦前からの長屋と路地^{注3)}のまち並みが残っている⁸⁾。

一方で、再開発が進行して多くの大規模マンションが建設されており⁹⁾、月島地区の人口は急増すると共に、若い世代を含む生産年齢人口も増加している。

2.2 長屋学校

長屋学校は、芝浦工業大学が文科省の「地（知）の拠点整備事業」^{注4)}に採択されたことを機に開設された地域連携施設である。リノベーションされた1926年建設の長屋の1階^{注5)}を使用している。

長屋学校の活動経緯¹⁰⁾を図2に示す。

長屋学校は、2013年10月に開設された。2014年5月に中央区民カレッジ^{注6)}が開催されたことで、その受講生だった地元住民が長屋学校メンバーとして集うようになった。2015年4月には、学生と長屋学校メンバーとの協働で、月島路地マップの英語版^{注7)}を完成させた。2016年6月には、やはり学生と長屋学校メンバーとの協働で月島まち歩きガイドブック^{注8)}を完成させた。活動内容は、フリートーク、大学授業・ゼミ、研究室プロジェクト、交流・訪問、イベント、長屋学校英語班^{注9)}と多様になり、活動回数も2014年は11回、2015年度は16回、2016年度は21回、2017年度は31回と増加した。長屋学校メンバーも2014年度は11名だったが、2017年度には17名に増加した。

3. みちおえかきイベントの内容と結果

3.1 みちおえかきイベントの内容と結果

みちおえかきイベントの内容と結果を図3に示す。

みちおえかきイベントは、子どもがチョークを使用して道路上に自由に絵を描くイベントである。計2回開催した。第2回は、第1回の結果を踏まえて、道路上の塗り絵とベーゴマ遊びを追加した。

1) 開催日時

第1回を2017年9月24日（日曜日）に、第2回を11月12日（日曜日）に開催した。時間は両日も13時から15時とした。第1回の天気は

晴、気温26度だった。第2回の天気は晴、気温16度だった。

第2回は、当初10月15日開催の予定だったが天候不良のため延期・再延期となり、結果として11月12日に開催した。

2) 開催場所

長屋学校前の幅員5.4mの道路を使用した。この道路は、毎週日曜日に月島警察署の規定によって沿道住民以外の自動車交通が規制される。みちおえかきイベントは規制時間内に開催した。

3) 会場とスタッフ配置

会場（道路上に絵を描くことができる範囲）を三角コーンとビニールテープで区画し、参加者が道路使用許可範囲外を使用することがないようにした。第1回では会場短辺部両脇のみを三角コーンとビニールテープで区画したが、時折参加者と通行者が交錯することがあったため、第2回では会場長辺部も区画した。

実施主体は交通整理スタッフとして5.4m道路入口に立ち、確実に自動車の進入を制限すると共に、会場両端にも立ち、通行者を誘導し参加者に注意喚起した。また子ども見守りスタッフとして会場内に5名程が立ち、参加者の安全を確保した。会場内の一角には机を置き、受付スタッフがいた。

3.2 みちおえかきイベントの結果

第1回は、子ども40名、保護者40名の計80名が参加した。会場に入りきれないほどの多くの参加者があった。第2回は、子ども40

年	活動回数	月日	主な活動内容	フリートーク	大学授業・ゼミ	研究室プロジェクト	交流・訪問	イベント	長屋学校メンバー英語班	長屋学校メンバー所属者数
2013	1	10月	芝浦工業大学が地域連携施設として設立							
2014	全11回	1/11	新年会・セミナー		●					11名
		1/27	建築ゼミナール2発表会		●					
		5/24	中央区民カレッジ(月島でのコミュニティ形成についての講義)				●			
		6/15	軽食を交えたトーク	●						
		7/19	今後の予定、月島の情報交換				●			
		9/27	長屋学校の活動準備と計画	●						
2015	全16回	11/23	スマートフォンを使ったまちあるき(学生卒業研究)			●			15名	
		3/24	おもてなし空間研究会の訪問				●			
		4/25	月島路地マップ英語版完成					●		
		5/8	ミシガン大学の訪問、まち歩きともんじゃ会				●			
		5/23	カリフォルニア大学の訪問、まち歩きともんじゃ会				●			
		7/19	路地のまち連絡協議会の訪問				●			
2016	全21回	8/1	住吉神社祭					●	15名	
		10/12	ユタ大学の訪問、まち歩きともんじゃ会				●			
		4/16	茨城大学の訪問、まち歩きともんじゃ会				●			
		5/3	早稲田大学の訪問、まち歩きともんじゃ会				●			
		6/25	月島まち歩きガイドブック完成			●				
		7/30	月島まち歩きガイドブックの英語翻訳開始					●		
2017	全31回	8/29	フシントン大学の訪問、まち歩きともんじゃ会				●		17名	
		9/17	月島まち歩きガイドブックの発表(Walk21+1 香港)練習				●			
		11/28	英語によるガイドツールの作成及び今後の活用	●		●				
		2/25	社会実験「オープン長屋」の開始(学生の修士研究)					●		
		3/4	社会実験「オープン長屋」					●		
		5/20	社会実験「オープン長屋」					●		
2018	全7回	6/24	社会実験「オープン長屋」の結果報告			●			17名	
		9/14	秋田大学訪問				●			
		9/24	社会実験「みちおえかき」					●		
		10/10	ユタ大学訪問				●			
		11/12	社会実験「みちおえかき」					●		

*1「歩行者と歩行空間」を主題として2000年に設立された国際会議。

図2 長屋学校の活動経緯

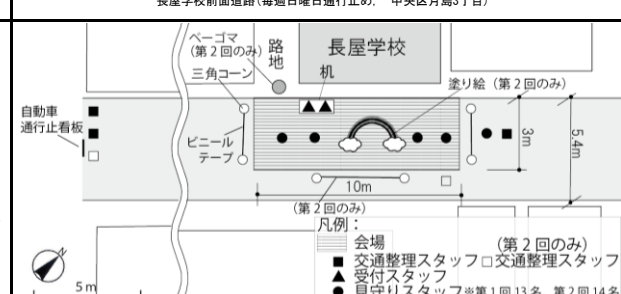




	第1回	第2回
内容	チョークを使用した道路上でのおえかき(参加費:無料)	
		・塗り絵、ベーゴマ ・長屋学校を紹介するチラシ、路地マップ配布
日時	2017年9月24日(日曜日)13時~15時(晴、26度)	2017年11月12日(日曜日)13時~15時(晴、16度)
場所	長屋学校前面道路(毎週日曜日通行止め、中央区月島3丁目)	
会場とスタッフ配置		
参加者数	子ども40名、保護者40名、計80名	子ども40名、保護者27名、計67名
参加者の様子	 <p>自由に絵を描く子ども</p>	 <p>塗り絵をする子供</p>
	 <p>「けんけんぱ」をする子ども</p>	 <p>ベーゴマを教わる子ども</p>

図3 みちおえかきイベントの内容と結果

名、保護者 27 名の計 67 名が参加した。会場一杯になるほどの多くの参加者があった。

子どもの参加者は、アニメのキャラクター等を楽しそうに自由に描いた。また丸を描いて「けんけんぱ」で遊んだ。第1回では夏休みの思い出を描く子どもも多かった。第2回では、数名で塗り絵をしたり、数名が実施主体・町会役員スタッフの指導を受けてペーゴマで遊んだりした。

4. 実施主体の体制と役割分担

実施主体の体制、準備過程、開催当日の役割分担、広報活動の分担について示す。

4.1 実施主体の体制

実施主体の体制を図4に示す。

実施主体は、企画者学生と学生、長屋学校メンバー、町会役員である。実施主体は、開催当日のスタッフを務め、開催までの準備過程で、打合せ、企画、準備作業、広報活動を分担して行った。

4.2 みちおえかきイベントの準備過程

みちおえかきイベント開催までの準備過程を図5に示す。

みちおえかきイベントの企画は、企画者学生が中心となり、企画

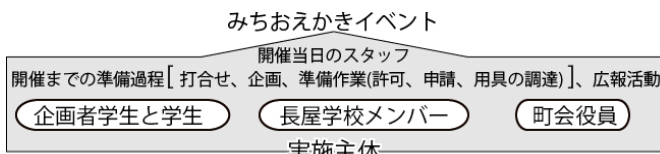


図4 実施主体の体制

日付	打合せ	実施主体			主な打ち合わせ内容	確認項目									
		企画者学生	長屋学校メンバー	町会役員		(1) 目的	(2) 内容	(3) 会場	(4) 許可・申請	(5) 広報活動	(6) 用具の調達				
第1回	7/22	企画者学生と長屋学校メンバー	・研究内容の説明 ・提案	・提案、助言	・目的に関する意見交換 ・企画に関する意見交換	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	9/2	企画者学生と町会役員	・企画の提案	・企画の提案、助言 ・準備や広報に関する助言	・みちおえかきイベントの開催が決定 ・みちおえかきイベント開催のための準備や広報方法に関する意見交換	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	9/7	企画者学生と町会役員	・企画説明 ・協力依頼	・運営に関する助言	・みちおえかきイベントの概要説明 ・町会役員が実施主体になること了承 ・広報方法や申請についての話し合い	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	9/12	企画者学生と町会役員	・ポスター試案の提出	・ポスター記載内容の助言	・町会の協力内容の確認 ・ポスター記載内容の確認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	9/18	企画者学生と町会役員	・ポスター掲示 ・企画説明	・ポスター掲示	・町会掲示板へのポスター掲示 ・周辺商店やマンションへの広報協力依頼 ・近隣住民への説明	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	9/19	企画者学生と警察	・当日の役割分担に関する提案	・当日の役割分担に関する提案、助言	・町会掲示板資料の提出 ・必要用具の貸し出しに関する打ち合わせ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	9/19	企画者学生と警察	・企画説明 ・必要書類の提出	・道路使用許可申請手続き	・道路使用許可申請手続き	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	9/22	企画者学生と警察	・書類の受け取り	・道路使用許可交付	・道路使用許可交付	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	9/24	開催	開催	開催	開催	開催	○	○	○	○	○	○	○	○	○
第2回	10/10	企画者学生と町会役員	・第1回みちおえかきイベントの報告 ・第2回みちおえかきイベントの企画説明	・運営に関する助言	・第1回みちおえかきイベントの報告 ・第2回みちおえかきイベントの企画説明	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	10/10	企画者学生と警察	・道路使用許可申請手続き	・道路使用許可申請手続き	・道路使用許可申請手続き	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	10/12	企画者学生と町会役員	・ポスター掲示 ・企画説明	・ポスター掲示 ・企画説明	・ポスター記載内容の確認 ・周辺商店やマンションへの広報協力依頼 ・近隣住民への説明 ・町会掲示板へのポスター掲示	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	10/13	企画者学生と警察	・書類の受け取り	・道路使用許可交付	・道路使用許可交付	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	10/15	中止ポスターの掲示	中止ポスターの掲示	中止ポスターの掲示	中止ポスターの掲示	中止ポスターの掲示	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	10/20	企画者学生と警察	・企画説明 ・必要書類の提出	・道路使用許可申請手続き	・道路使用許可申請手続き	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	10/24	企画者学生と町会役員	・ポスター掲示 ・企画説明	・ポスター掲示 ・企画説明	・ポスター記載内容の確認 ・町会掲示板へのポスター掲示 ・周辺商店やマンションへの広報協力依頼 ・近隣住民への説明	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	10/25	企画者学生と警察	・書類の受け取り	・道路使用許可交付	・道路使用許可交付	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	10/28	企画者学生と長屋学校メンバー	・第1回みちおえかきイベントの報告 ・第2回の企画提案	・第1回みちおえかきイベントへのコメント ・第2回みちおえかきイベントの企画提案、助言	・第1回みちおえかきイベントの報告と意見交換 ・第2回みちおえかきイベントの企画説明と意見交換	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	10/29	中止ポスターの掲示	中止ポスターの掲示	中止ポスターの掲示	中止ポスターの掲示	中止ポスターの掲示	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	11/8	企画者学生と町会役員	・ポスター掲示 ・企画説明	・ポスター掲示 ・企画説明	・町会掲示板へのポスター掲示 ・周辺商店やマンションへの広報協力依頼	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	11/11	企画者学生と長屋学校メンバー	・第2回みちおえかきイベントの企画提案	・第2回みちおえかきイベントの企画提案、助言	・第2回みちおえかきイベントへの発展についての意見交換	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11/12	開催	開催	開催	開催	開催	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

図5 みちおえかきイベント開催までの準備

凡例：検討 ○ 決定 ●

者学生と長屋学校メンバー、町会役員が打合せで、検討や決定を行っていった。2018年7月22日と9月2日の長屋学校メンバーとの打合せで、この地区で昔からある子どもの遊びを連想させるみちおえかきイベントの企画が確定した。その後、9月7日からの計3回の町会役員との打合せで、町会役員が実施主体となることの了承と協力内容の確認、ポスター記載内容の確認、周辺商店やマンションへの広報協力依頼、近隣住民への説明を行った。9月19日と9月22日には、警察への道路使用許可申請手続きを行った。

第2回では、2回の開催延期を経て、計3回の町会役員との打合せで、第1回みちおえかきイベントの報告、第2回みちおえかきイベントの企画説明、ポスター記載内容の確認、周辺商店やマンションへの広報協力依頼、近隣住民への説明を行った。計2回の長屋学校メンバーとの打ち合わせで、第1回みちおえかきイベントの報告と意見交換、第2回みちおえかきイベントの企画説明と意見交換を行った。また2回の開催延期があったため、警察への道路使用許可申請手続きは計3回にわたった。

警察への道路使用許可申請では、月島警察署交通規制課へ、みちおえかきイベント概要書(内容、方法、主催団体、協力団体を記載)、会場案内図、平面図と道路使用許可申請書を提出し、道路使用の許可を得た。申請書を提出してから許可書が交付されるまでに3日を要した。

4.3 開催当日の役割分担

開催当日の役割分担を表1に示す。

企画者学生と学生は、主に受付スタッフ、見守りスタッフを務めた。第2回では、一部が交通整理スタッフを務めた。長屋学校メンバーは、見守りスタッフを務めた。町会役員は、主に交通整理スタッフを務めた。また当日の準備は、企画者学生と学生、長屋学校メンバー、町会役員が分担して行った。

4.4 広報活動の分担

みちおえかきイベントの広報活動について図6に示す。

企画者学生と長屋学校メンバーA、B、D、Fと、町会役員a(町会長)が広報方法を検討した。企画者学生がポスター・チラシを作成した。企画者学生と町会役員が町会掲示板へのポスター掲示を行った。企画者と町会役員aが店舗などへの広報協力の依頼を行った。その他、長屋学校メンバーCは自身の経営する音楽教室で、Dはコミュ

ニティ・ラジオ放送で、EはブログやSNSで広報した。

4.5 用具と経費の分担

使用した用具と経費を表2に示す。

必要な用具と数を企画者学生が提案し、主に町会役員との打合せで決定した。

机・折りたたみイス・三角コーンは、町会から貸し出された。清

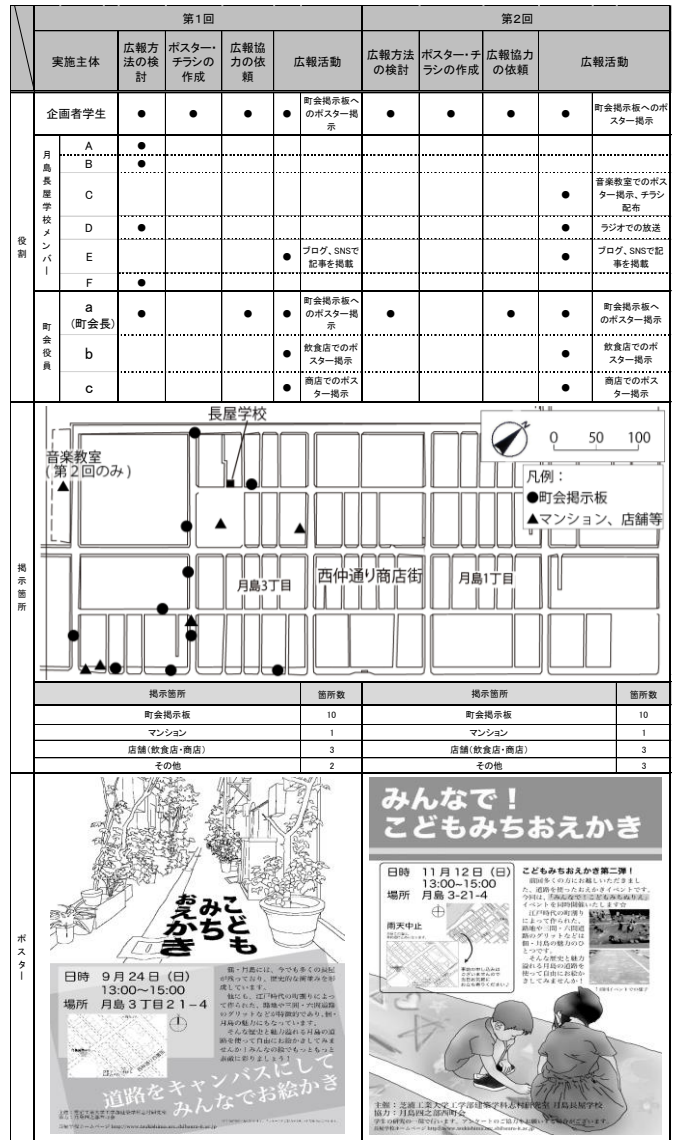


図6 みちおえかきイベントの広報活動

表2 使用した用具と経費

表1 開催当日の役割分担

実施主体	名前	第1回				人数の合計	第2回				人数の合計	
		受付スタッフ	見守りスタッフ	交通整理スタッフ	準備		受付スタッフ	見守りスタッフ	交通整理スタッフ	準備		
企画者学生	A	●	●	●	●	1名					1名	
学生	イ	●	●			4名		●			6名	
	ウ		●					●				
	エ		●					●				
	オ		●		●			●				
	キ								●			
	ク								●			
長屋学校メンバー	ケ					7名		●			6名	
	コ							●				
	A		●					●				
	B		●					●				
	C		●						●			
	D		●		●				●			
	E		●						●			
町会役員	F		●			2名		●			3名	
	a		●		●			●				
	b				●				●			
	d								●			
	e								●			
	f								●			
計		2名	13名	3名	5名	14名	2名	13名	5名	6名	16名	

名称	第1回			調達先	第2回		
	単価(円)	個数	小計(円)		単価(円)	個数	小計(円)
机	0	1	0	町会	0	1	0
折りたたみイス	0	3	0		0	4	0
三角コーン	0	4	0		0	6	0
お茶	0	1	0	長屋学校	0	1	0
お菓子	0	-	0		0	-	0
デッキブラシ	0	2	0	メンバー	0	1	0
デッキブラシ	500	1	500		500	1	500
白(10本)	75	2	150	企画者学生	75	2	150
赤(10本)	148	2	296		148	2	296
黄(10本)	148	2	296		148	2	296
青(10本)	148	2	296		148	2	296
ペイゴマ	0	2	0	企画者学生	0	2	0
ウエルトティッシュ	0	1	0		0	1	0
A5版長屋学校チラシ	0	40	0	企画者学生	0	40	0
路地マップ	0	100	0		0	100	0
ビニールテープ	0	1	0	企画者学生	0	1	0
道路使用許可申請	2,100	1	2,100		2,100	1	2,100
リクレーション保険	50	40	2,000	企画者学生	50	40	2,000
合計(円)			4,051				5,638

掃用のデッキブラシやお茶・お菓子は、長屋学校メンバーから貸し出され・提供された。その他の用具と道路使用許可申請やリクレーション保険^{注10)}は企画者学生が準備した。第1回では4,051円、第2回で5,838円の費用がかかった。

5. みちおえかきイベントの効果と評価

みちおえかきイベントの参加者及び、実施主体の一つである町会役員、長屋学校メンバーへのアンケート調査結果^{注11)}から、みちおえかきイベントの効果や評価を明らかにする。

5.1 参加者へのアンケート調査結果

調査結果を図7に示す。

調査は、みちおえかきイベントに参加した保護者を対象に行った。回答数は第1回が40、第2回が27であった。質問1)～4)は第1回、第2回の共通の質問であり、質問5)、6)は第2回のみ質問である。

1) 年齢

第1回は、30代が63%と最も多く、次いで40代が35%と多かった。第2回も、30代が45%と最も多く、次いで40代が37%と多かった。保護者参加者は全て若い世代であったので、みちおえかきイベントは、若い世代が参加した地域活動だったと言える。

2) みちおえかきイベントを知ったきっかけ

第1回、第2回ともに「知人からの紹介」が最も多く、それぞれ54%、33%であった。参加者間で、メールやSNS^{注12)}を使用した情報拡散があったと推測される。

3) 交流の有無

町会役員や長屋学校メンバー、保護者との新たな交流について、「交流あり」は第1回では30%と少なかった。第2回では41%と比較的多かった。第2回で行った塗り絵、月島路地マップ・長屋学校

を紹介したチラシ^{注13)}の配布が交流を増やしたと考えられる。

「交流を生むきっかけになると感じたか」については、第1回では「とても感じた」が35%、「少し感じた」が52%であった。第2回ではそれぞれ、33%、56%であった。第1回・第2回ともに9割近くの参加者が、みちおえかきイベントは交流を生むきっかけになると感じていた。

4) 今後の参加意向

今後の、みちおえかきイベントへの参加意向では、「とても参加したい」が第1回では80%、第2回では70%であった。第1回・第2回ともに多くの参加者が今後も参加したいと回答したので、みちおえかきイベントへの満足度は高かったと言える。

5) 第1回みちおえかきイベントへの参加

第2回において、第1回みちおえかきイベントにも参加した人は1名のみ4%であり、第1回と第2回では、ほとんどが別の参加者であった。

6) 長屋学校やまちへの関心

長屋学校の活動について、「知らなかった」が約7割と最も多かった。長屋学校の活動への関心について、「とても高まった」が33%、「少し高まった」が56%であった。合計で約9割の参加者が長屋学校への関心が高まったと回答した。また、まちに対する関心についても同様の結果で、約9割の参加者がまちに対する関心が高まったと回答した。みちおえかきイベントは、まちへの関心や地域活動への関心を高めたと言える。

5.2 町会役員へのアンケート調査結果

調査結果を図8に示す。

調査は、2回に分けて実施した。まず、町会役員会に出席した34名の町会役員に対して、みちおえかきイベントの内容と実施結果を説明し、みちおえかきイベントの評価の評価について調査を行った。回答数は26であった。また、みちおえかきイベントのスタッフとなった町会役員6名に対して、みちおえかきイベントでの交流について調査を行った。

1) みちおえかきイベントの評価 (回答：町会役員26名)

「大変よい」が31%、「よい」が69%と、全員がみちおえかき

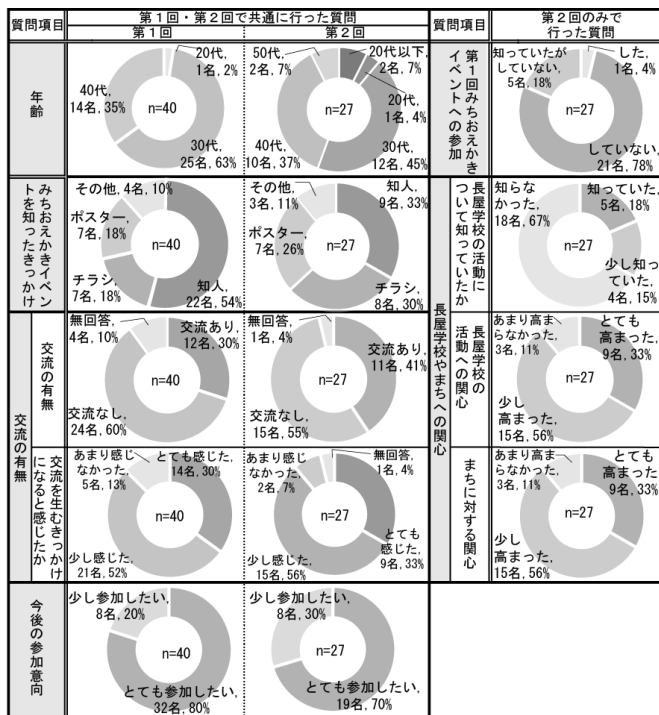


図7 参加者へのアンケート調査結果

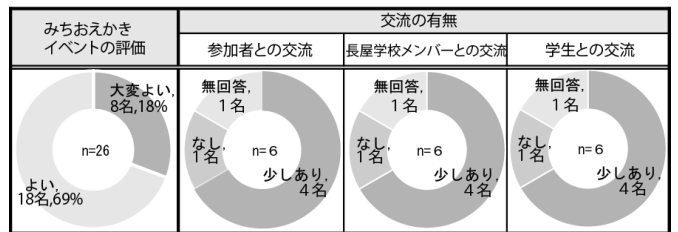


図8 町会役員へのアンケート調査結果

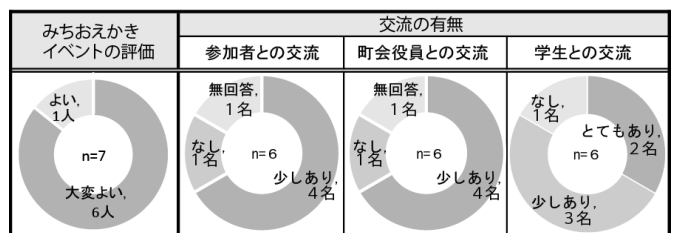


図9 長屋学校メンバーへのアンケート調査結果

ベントを肯定的に評価した。

2) 交流について (回答: 町会役員スタッフ6名)

参加者との交流は、「かなりあった」が2名、「少しあった」が3名であった。長屋学校メンバー・学生との交流は、「かなりあった」が1名、「少しあった」が4名であった。町会役員スタッフは、参加者や長屋学校メンバー、学生と概ね交流していた。

5.3 長屋学校メンバーへのアンケート調査結果

調査結果を図9に示す。

みちおえかきイベントのスタッフとなった9名を対象に行い、回答数は7であった。

1) みちおえかきイベントの評価

「大変よい」が6名、「よい」が1名と、全員がみちおえかきイベントを高く評価した。

2) 交流の有無

参加者との交流は、「少しあった」が4名、「なかった」が1名あった。町会役員との交流は、「少しあった」が4名、「なかった」が1名であった。学生との交流は、「かなりあった」が2名、「少しあった」が3名であった。長屋学校メンバースタッフは、学生とは全員が交流していたが、参加者と町会役員とは交流は比較的少なかった。これは、長屋学校メンバーは全員が「見守りスタッフ」になっていたためと考えられる。

6. まとめ

本稿では、中央区月島の月島長屋学校を拠点として開催したみちおえかきイベントの内容と結果、実施主体の体制と役割分担、効果と評価について以下のことを示した。

- ・計2回開催したみちおえかきイベントは、多くの子どもと保護者の参加者があり盛況であった。保護者参加者の全てが若い世代であり、みちおえかきイベントは若い世代が参加した地域活動であった。参加者間で電子メールやSNSを使用した情報の拡散があったことが、参加者が多くなった理由と推測される。
- ・みちおえかきイベントの実施主体は、企画者学生と学生、長屋学校メンバー、町会役員の3者であった。準備過程において、企画者学生と長屋学校メンバーは企画を検討・決定し、企画者学生と町会役員は、町会の協力内容の確認、ポスター記載内容の確認、周辺商店やマンションへ広報協力の依頼、近隣住民への説明を行った。また広報活動は、企画者学生と長屋学校メンバー、町会役員とが協力して行った。
- ・みちおえかきイベント開催当日では、企画者学生と学生は受付交通整理・見守りスタッフを務め、長屋学校メンバーは見守りスタッフを務め、町会役員は交通整理・見守りスタッフを務めた。用具の調達先は、企画者学生、町会、長屋学校メンバーで、開催経費は5,000円程度であった。
- ・みちおえかきイベントにおいて、塗り絵、月島路地マップ・長屋学校を紹介したチラシを配付したことが、参加者同士及び参加者と実施主体との交流を生んでいた。
- ・参加者のみちおえかきイベントへの満足度は高かったと言え、また町会役員と長屋学校メンバーのみちおえかきイベントへの評価も高かった。
- ・みちおえかきイベントは、参加者のまちへの関心や地域活動への

関心を高めることができた。

以上のことから、みちおえかきイベントの普及について以下のことが言える。

- ・みちおえかきイベントは、多くの若い世代が参加する地域活動となる。また、参加者のまちへの関心や地域活動への関心を高めることができる。
- ・みちおえかきイベントは、みちおえかきをする子どもの安全が確保されることを前提として、学生と長屋学校メンバーといったまちづくり住民団体、町会といった地域組織が連携し、企画の検討と決定、様々な準備作業、開催当日の作業を分担することで実施できる。
- ・みちおえかきイベントにおいて、参加者同士及び参加者と実施主体との交流を生むには、塗り絵や実施主体について説明する等の準備が必要である。

謝辞

本研究は、芝浦工業大学建築学科4年佐藤広彩の卒業研究を元にしたものである。

注釈

- 注1) 月島四之部西町会のことを指す。
- 注2) 月島地区とは月島1丁目から4丁目を指す。
- 注3) 月島では、六間道路と三間道路がグリッド状に整然と通る街割りの中に多くの路地が規則的に通っている。路地の幅は約一間から九尺(1.8~2.7メートル)である。
- 注4) 地(知)の拠点整備事業とは、文部科学省が日本国内の国公私立大学を対象として、地域の課題と大学の資源の効果的なマッチングによる地域の課題解決と、地域課題に対する振興策の立案・実施までを視野に入れて取り組みを進める施策である。解決に向けて主体的に行動できる人材の育成と、地域再生・活性化の拠点となる大学の形成を目指す。文部科学省HP
- 注5) 1926年建設の長屋は2003年に学生及び教授によって改修され、1階はまちづくり活動のスペース、2階は住居として使用されている。
- 注6) 中央区民カレッジとは、区内在住・在勤・在学者に開かれている生涯学習の場であり、地域の歴史や文化に触れる講座やワークショップを取り入れた学習会、ボランティアの養成など、様々な講座を開催している。中央区HP
- 注7) 月島路地マップとは、月島や路地の魅力を発信し、保全するためのもので、2011年に初版が発行された。月島路地マップ英語版は、2015年に長屋学校メンバーとの連携により完成した。
- 注8) 月島まち歩きガイドブックとは、海外からの来訪者のために、英語でガイドするための冊子である。
- 注9) 長屋学校英語班とは、長屋学校のメンバーのうちの1人である翻訳家が英語指導を行っているグループである。
- 注10) リクレーション保険とは、1契約あたり、参加者数20名以上の行事に参加する人の怪我を補償する保険である。
- 注11) アンケート調査は、第1回みちおえかきイベントを開催した2017年9月24日と、第2回みちおえかきイベントを開催した2017年11月12日に行った。
- 注12) SNSとは、ソーシャルネットワークサービスの略である。Facebook、LINE、Instagramを指す。
- 注13) チラシとは、実施主体の1つである長屋学校を紹介するものである。

参考文献

- 1) 志村秀明: 文化を受け継ぐ低層の街並みとタワーマンション群-佃島と大川端リバーシティとの住民間交流, 日本都市計画学会, 都市計画, No. 307, p56-61, 2014.2
- 2) 月島長屋学校ホームページ, 2018
<http://www.tsukishima.arc.shibaura-it.ac.jp/>
- 3) 日本建築学会: まちづくり教科書シリーズ, まちづくり学習, 丸善株式会社, 2017
- 4) 木下勇: ワークショップ住民主体のまちづくりへの方法論, 学芸出版社, 2017.1
- 5) こどもとまちづくり研究会: まちづくり読本 2 こどもとまちづくり-面白さの冒険-, 有限会社風土社, 1996
- 6) 野地菜穂美, 倉持康平, 志村秀明: 小学校と大学・住民の連携による「まちのカルタづくりワークショップ」の開発, 日本建築学会技術報告集 Vol.20, No.24, p317-322, 2014.2
- 7) 東京都中央区ホームページ, 2018
<http://www.city.chuo.lg.jp/kusei/statisticaldata/zinko/index.html>
- 8) 志村秀明: 月島再発見学, 株式会社アニカ, 2013
- 9) 志村秀明: 再開発ビッグプロジェクトとサステイナブル・コミュニティ-東京都中央区佃・月島地区を事例として-, 都市住宅学 57号, p27-32, 2007
- 10) L. Chenporn, Y. Jia, K. Moriya, H. Shimura : Development of a Community Design House by Collaboration between the University and ResidentsA Case Study on Tsukishima Nagaya School, Asian-Pacific Planning, Societies 2017.12

[2018年6月6日原稿受理 2018年8月28日採用決定]